

鹿児島の 海運王・浜崎太平次と 造船王・川崎正蔵

海上交通システム研究会
第130回例会
平成28年(2016)8月3日
神戸大学海事科学部総合学術交流棟

岡本 洋

浜崎太平次と川崎正蔵の海と船のドラマ

川崎重工創業者・川崎正蔵の
明治開明期での起業挑戦スピリットのルーツ

冒険的開明派 海運王・浜崎太平次の活躍
正蔵は約12年間勤務、太平次からの影響

江戸末期 鹿児島、長崎で繰り広げられた
世界の鼓動、幕府・各藩からの俊秀らの
人生の交流

薩摩藩・日本一の貧乏藩、大借金
お家騒動と藩・主導の抜け荷
改革者・調所笑左衛門 と 英明藩主・斉彬

鹿児島県の海運王

浜崎太平次

文化11(1814)～文久3(1863)

2



薩摩藩の財政は太平次
なしには成り立たな
かった。

幕末の薩摩藩の武力も。
西郷、大久保、斉彬に
貢献、日本初の国際貿
易商

出身地の指宿公園に立つ 8代・
浜崎太平次 銅像

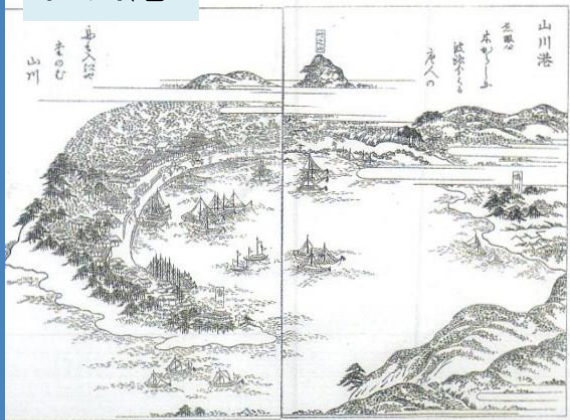


薩摩藩を支えた海商一第8代浜崎太平次

34隻(36隻の説も)の船を所有、藩船として天保の 改革の家老・調所笑左衛門と一体となり専売の強化された奄美大島黒糖輸送、琉球貿易の他に独自の海運・抜け荷活動。加賀藩の銭屋五兵衛とも連携した。幕末薩摩藩に多額の献金。明治維新に側面から貢献。(新選組の手に掛かり負傷*)維新完成の4年前、文久3(1863)大坂で客死。

*異説

山川港



「三国名勝図会」に描かれた山川港

江戸時代薩摩藩の藩港として琉球口貿易の拠点

荷物改めの役を担う津口番所があった。

浜崎家

初代 鹿児島神宮神官
2代 ~1708、3代 ヤマキ屋号
4代 海運業、5代 長者番付上位、6代 太平次~1812、800石船、8代~1863 海運・貿易・造船・寒天製造、海運大いに発展。

指宿港・山川港



宮ヶ浜港：
太平次の
琉球・南
島の海運
業拠点港
の一つ

田良浜

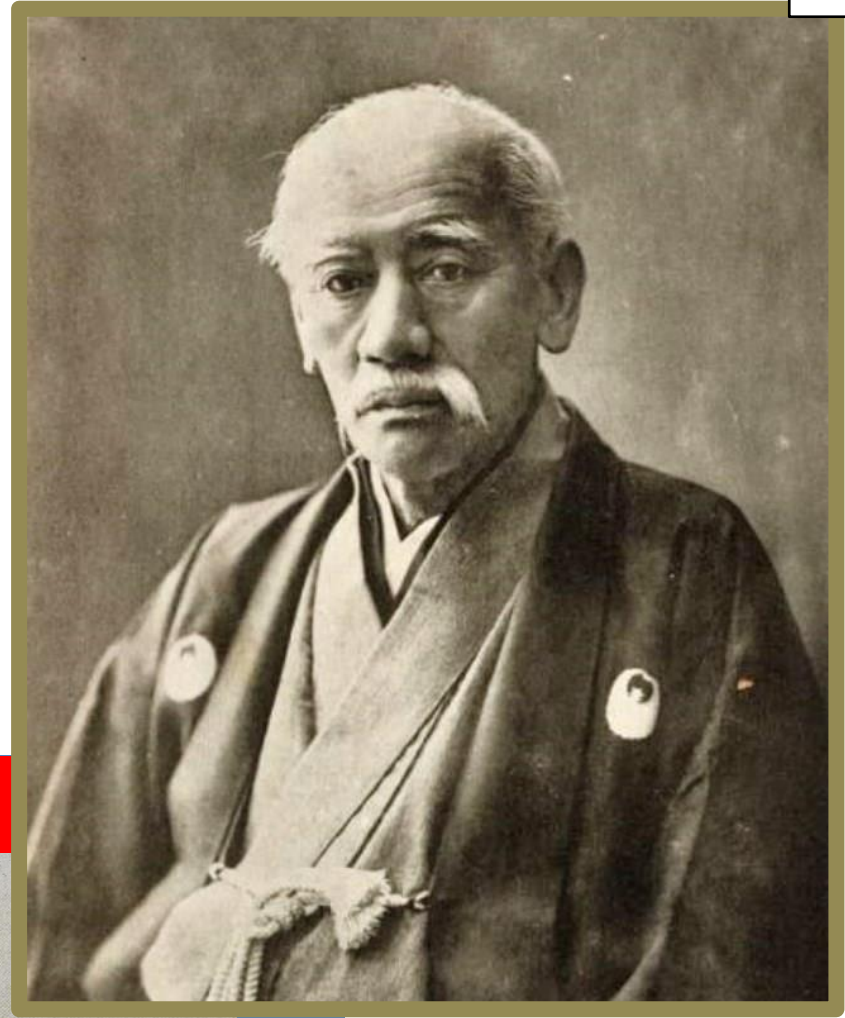
指宿港：
湊浦に
太平次の
本宅、造
船所。
太平次の
銅像。



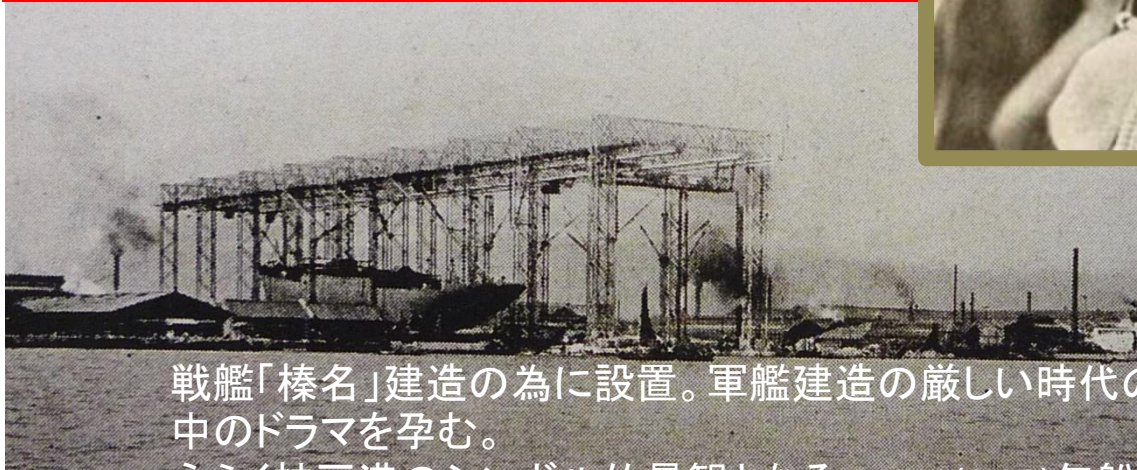
川崎正蔵

川崎重工業・創業者 男爵
鹿児島出身
1837(天保8)～1912(大正1)

明治11(1878)年東京築地に
個人経営 川崎造船所起業
明治29(1896)年神戸に
株式会社・川崎造船所創業



川崎造船所のガントリークレーン



戦艦「榛名」建造の為に設置。軍艦建造の厳しい時代の中
のドラマを孕む。

明治開明期の産業発展の
リーダーの一人、川崎財閥
創設、会社はその後
海に、陸に、空に発展
ここに約140年

川崎造船所始まりの時代

「ペリーの浦賀来航」・・・1853年嘉永6年7月8日

その3か月後に、幕府は200年以上続いた

「大船建造の禁」を解禁し、諸大名に造船を奨励した。

幕府の長崎・横須賀に加え、浦賀造船所、水戸藩・石川島造船所が(1853)に完成した。この他、加賀藩の七尾造船所、島津藩の桜島造船所も建設されている。幕府、雄藩に国防、海運増強の為造船所建設の動きが高まった。然し、未だ造船業に関心を示す民間人は少ない中、

川崎正蔵は 個人経営として先ず、東京築地に

川崎築地造船所開設——1878年(M.11.4)* 今より138年前の事。

*当時は西南戦争(M10.2.15～10.9.24)終結の約1年後のこと。

郷土・鹿児島友人・相談相手の内務卿・大久保利通(満47歳)はそのひと月後5月14日に暗殺される。正に激動の時代。

* 築地造船所開設の3年後1881年(M.14)3月に兵庫造船所、その5年後1886年(M.19)官営兵庫製作所の払い下げを受けて、現在地に川崎造船所として集約した。

明治初年の内外圧のドラマを目の前に、又、日清(1894-5)、日露(1904-5)戦争を真近に控えて、殖産興業、富国強兵を強く求められる時代背景を持つ。

爾来、海に、陸に、空に、ここから発展、今日に至る。

明治14年頃の神戸港地図

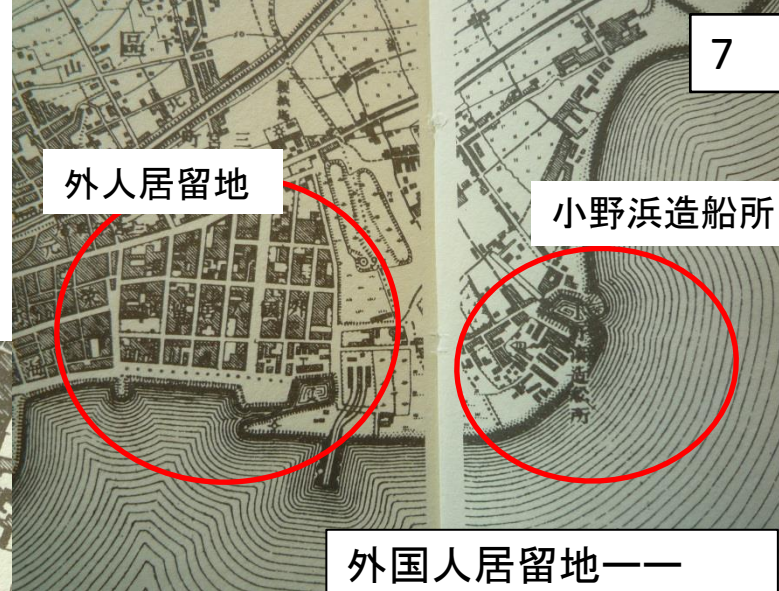


1881年
(M.14) 内務省地理
測量課刊
行1/5000
兵庫神戸
実測図 による

三菱神戸造船所
位置(設置以前)



拡大率は各部で
夫々異なる



外人居留地

小野浜造船所

外国人居留地——
1868.1.1(慶応3.12.7)
~1899(M.32)7.16まで
存在。25.8万㎡

停車場

湊川

東川崎町

東出町

川崎造船所——*

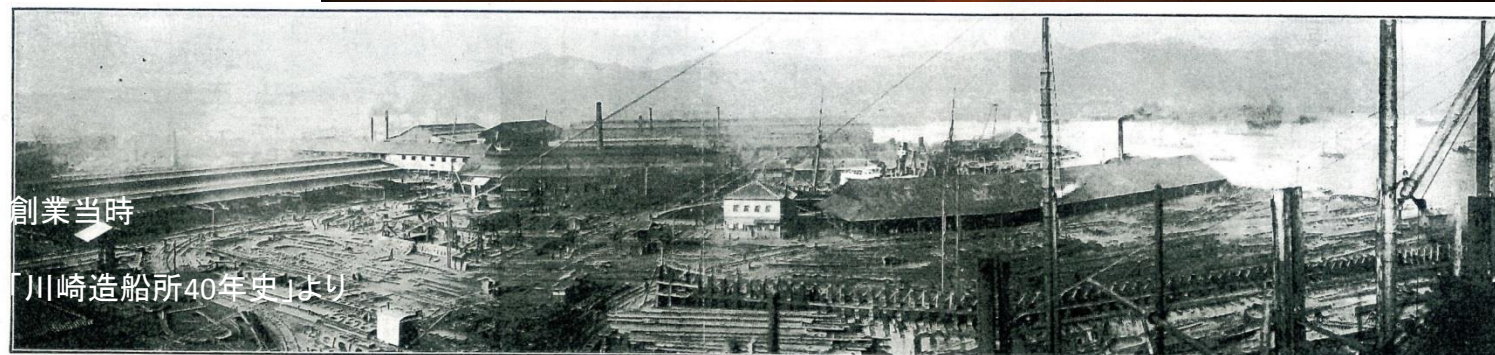
- バルカン造船所(1869.M.2.4)*
- 加賀藩兵庫製鉄所**(M2.8)
- 工部省兵庫造船所* (上記を
(1877,M.10.1) 買収)
- 川崎築地造船所・兵庫
造船 分所*(1878,M11)
- 川崎兵庫造船所*
(1881,M.14.3)
- 個人経営・川崎造船所*
(1881,M.19.5.集約)
- (株)川崎造船所*
(1896,M.29.10.15.設立)

↓ 払下げ ↓

*東川崎町
**東出町

川崎造船所の今昔

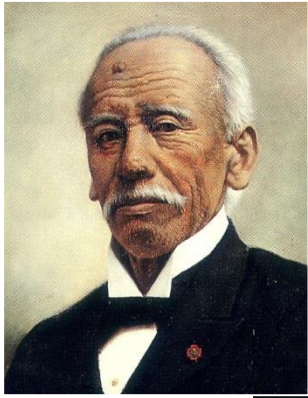
旧湊川の川尻の
橋をわたり川崎造
船所への朝の通
勤社員の風景



株 式 会 社 川 崎 造 船 所 全 景



川崎重工業(株)神戸工場—発展の原点



創業者
川崎正蔵
1837(天保8)～
1912(大正1)
男爵



初代社長
松方幸次郎
1866(慶応1)～
1950(昭和25)



「川崎重工業(株)百年史」より

川崎重工業(株) 歴史

1878年(M.11)東京築地に川崎造船所
1881年(M.14)神戸に川崎兵庫造船所
1886年(M.19)ここ湊川尻に川崎造船所
1896年(M.29)創業者・川崎正造の個人
経営より 株式会社川崎造船所
初代社長・松方幸次郎～1927(S.2)

その後の発展—初期の神戸地区のみ、他は略
1906年(M.39) 運河工場設立・車両部門
1913年(T.2)兵庫工場に改称
1918年(T.7)葺合工場設置—製板・鉄鋼部門
1950年(S.25) 川崎製鉄(株)として分離
1919年(T.8)川崎汽船(株)設立—船舶部門分離して

川崎正蔵 の歩み

天保8年(1837) 鹿児島城下・大黒町生まれ
 嘉永5年(1852) 15才 藩命により延岡藩へ出張
 利米請求の為
 嘉永4年(1851) 14才 山木屋浜崎家に就職(三島康説)
 嘉永6年(1853) 16才 同 長崎支店勤務

文久3年(1863) 26才 大坂 個人商店
 同年、太平次 大阪で客死(新撰組の襲撃説?)

砂糖会社入社。500石以上の和船建造禁止の
 建白書数回大蔵省に提出

明治6年(1873) 36才
 日本国郵便蒸気船会社*副頭取就任
 前島 蜜(大蔵省駅逡頭)の斡旋
 翌年2月に掛けて、*に貸金

明治8年(1875) 39才 琉球藩貢糖の
大阪への輸送と販売を大蔵省から命じられる

明治9年(1876) 40才 三菱汽船会社の管事に就任

明治10年(1877) 41才 神戸、大坂に土地、屋敷購入

明治11年(1878) 42才 築地に造船所開設
 第1船の進水式 官民千数百人 参列
 五代友厚との交流深まる……



1-2 「造船狂」の面影を持つ壮年期の川崎正蔵

壮年期の川崎正蔵

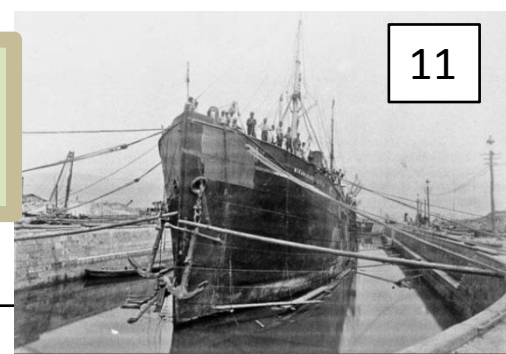
[造船狂]の面影を持つ壮年期の川崎正蔵
 三島康雄著書より

……造船狂と言われていた、らしい

川崎造船所 第1ドックの完成

川崎正蔵 執念の挑戦—軟弱地盤の難工事克服

11



①



1902年11月完成 (6年にわたる難工事)

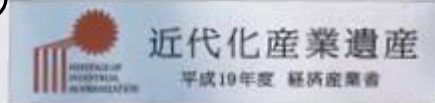
(日露戦争(1904.2.8～1905.9.5)勃発のちょうど2年前完成。
湊川河口にあたる軟弱地盤を克服する新工法採用、
神戸港における最初の本格的ドックとして完成

——近代造船所としての必須設備を確保した

2014年 役目を終え、埋戻し

阪神・淡路大震災の被災、船型の大型化などによる。

②



①1998年(平成10年)
文化庁

②2007年(平成19年)度
経済産業省



Kwaaki News より。

<https://www.khi.co.jp/knews/backnumber/bn.html>

浜崎太平次 薩摩藩直営の海漕業者として活躍

浜崎家—薩摩國分村八幡宮神官、慶安時代1650年頃**指宿町十二湊に移る**
2代、—6代太平次の頃には日本長者番付263人中の一人、

全国長者番付—寛政時代(1800)頃—**全国長者番付 12位** 以降・太平次襲名
海運業の端緒—島津家認可の貿易船—6代太平次は稲荷**丸山木屋** **海運業**
の端緒

7代・太平次 衰退に—密貿易 藩内・業者間暗闘

8代・太平次 大発展—**南島、沖縄貿易・薩摩藩直営の密貿易拡大と造船業**
財政困窮 頂点に達する薩摩藩の改革 家老・調所笑左衛門と直結
歴代藩主と良好関係維持・直結一度々、資金提供
薩摩藩内 闘争 藩内 改革 藩主相克・・重豪・・斉彬・・久光
明治維新一薩摩の新鋭たちとの交流—西郷隆盛・大久保利通・松方正義・・
琉球貿易、密貿易、海外貿易—中国・南シナ、ジャワ
銭谷五兵衛—との密貿易—加賀 前田藩との結託—蝦夷俵物
川崎正蔵との出会い—大きな感化・影響をあたえる。

浜崎家の没落—9代、10代 重なる海難、不幸。・・・断絶。川崎が引き継ぐ。

薩摩藩 基本的な赤字体質 潜在抜け荷構造

薩摩藩—関ヶ原の戦い、江戸幕府により薩摩、大隅、日向の一部に押し込め
士族数が圧倒的に多い

族籍別人口表

族	籍	薩隅日三州	%	全国（明6）	%
平	民	568,643	73.62	31,106,514	93.84
士	卒	203,711	26.38	1,895,278	5.72
僧尼	及神官			146,494	0.44
総	計	772,354	100	33,148,286	100

平民対士族人口比 薩藩2.8, 全国16.5

（鹿児島県禄高調, 明治4年7月14日現在）

琉球王国を服属—慶長5年(1609)、琉球に出兵。琉球には大幅な自治権。年貢より琉球窓口の中国と貿易が利益。3島の黒糖専売買い上げ幕府は2万両/年の琉球貿易を認める。
 帰国した船を山川港で検査。 … 抜け荷の余地、幕府の黙認

薩摩藩

日本一の貧乏藩

薩摩藩—関ヶ原の戦い、江戸幕府により薩摩、大隅、日向の一部に押し込め
 士族数が圧倒的に多い
 収入は少ない—土質 作物に適せず

致命的な大借金

薩摩藩の借金表

年	次	借 銀 高 (金両)
元和2年	(1616)	1,000貫余 (2万両)
寛永9年	(1632)	7,000貫余 (14万両)
// 17年	(1640)	21,000貫余 (34.5万両)
寛延2年	(1749)	34,000貫余 (56万両)
宝暦4年	(1754)	40,000貫余 (66万両)
享和元年	(1801)	72,600貫余 (117万両)
文化4年	(1807)	76,128貫余 (126万両)
文政10年	(1827)	320,000貫余 (500万両)

藩財政破綻寸前

年間利子60万両 薩摩藩年間経常収入約14万両

藩政改革

薩摩藩藩主の厳命、3箇条(天保元年12月(1830))

重豪(隠居)

斉興(当主・藩主)

厳命

新任家老・

調所笑左衛門

500万両の借財
処理、さらに

- 1.天保2年から11年までの10年間に、50万両の積立金を作る事
- 2.右の他に平時並びに非常時の手当金もなるだけ蓄える事、
- 3.古証文を取り返す事、

調所笑左衛門は立派になしとげ、更に250万両の蓄え(天保11年)も
江戸期 最大の改革 成功例、悲劇の功労者

薩摩藩政改革の真の改革成功者として評価高い 文献10)他

その方法は……

500万両証文⇒証文をとり返し焼却・・・事実上、踏み倒す。
密輸を大規模に行う一太平次と組み、薩摩藩事業として。
その他、合理的節約、新規事業、事務・諸契約の合理化

お由羅騒動(斉彬自身の薩摩藩抜け荷暴露事件)スライド21参照 *嘉永元年1849)1.13

最後は、「抜け荷の責任」を一身に負い、自殺*。藩主を守る。

調所笑左衛門の苦肉の古証文取り返し

すなわち調所は、大坂商人出雲屋孫兵衛の協力を得たうえで財政改革に乗りだし、海老原に命じて、古い借用証文をしたため替えるから一時返してくれとだまし取って、それをすべて焼き捨ててしまった。そしてその証文は250年賦で、無利子にて変換するという踏み倒し同然の暴令を発したのである。

大坂の両替商はもとより、薩摩藩に金を融通した豪商、諸大名はすべてこの手にひっかかった。親戚の近衛、一橋家なども例外ではなかった。当然大騒ぎになったが「調所の身体は今日限りでござる。ご存分になされよ」と居直ったのである。幕閣でも問題になったが、当時はまだ存命中の重豪の影の力がものを言って、結局うやむやにされた。

直ちには信じ難い荒業。天下の雄藩・薩摩藩にはこれを可能にする何かがあったのだろうか。

鎖国下の海外貿易と密輸(抜け荷)

鎖国—1641(or1639)～1859年まで中国・オランダのみとの貿易制限。
 1603年徳川幕府開府後、1639年ポルトガル船入港禁止、海外渡航禁止、
 >500石船の建造禁止。 (国交 貿易) (国交 貿易)
 「中国、オランダ」= 通商国(X、 O)、「朝鮮、琉球」=通信国(○、○)

薩摩の琉球侵攻—1609年(慶長14)。奄美群島は直轄地、薩摩の服属国に。

四つ口—1.長崎口 = 中国(清朝)、オランダ—長崎奉行直轄
 2.対馬口 = 朝鮮(李朝)—対馬藩経由
 3.薩摩口 = 琉球王国—薩摩藩経由—琉球経由の唐物輸入高
 年2万両以下認められた。幕府は口出しなかったが、貞享2年
 (1685)には2千両/年以上の唐物輸入禁止を出した3-1)。
 4.蝦夷口 = 北海道(アイヌ)—松前藩—アイヌ取引全権委任

抜け荷—幕府の鎖国政策は「抜け荷」厳禁。然し、江戸時代後半は、
 100万石加賀藩、72万石薩摩藩共に財政は軒並み借金体質。
 西回り航路開発による北前船の発展は、「抜け荷」を助長。
 その代表として、加賀藩御用船としての銭谷五兵衛の大活躍
 と「抜け荷」が有名。

薩摩藩の「抜け荷」—薩摩藩は「抜け荷」なしでは遣って行けない財政体質。藩主以下、全体の認識が一致。

薩摩口(琉球貿易)は「抜け荷」やり易い環境。唐物・南島より物産。

薩摩「抜け荷」の風聞—幕府への根回し、人材。将軍への婚姻
斉彬の自らの「薩摩抜け荷の幕府への暴露報告」事件でも、

「薩摩藩おとりつぶし」なしに済んだ政治力……

太平次はその実行部隊一個人経営の指宿造船所の目的は、

幕府側に臨検されても「抜け荷の品物」隠しとおせる構造船
倉庫を分散、船大工、船頭の臨検対策訓練など、周到な手配。

「抜け荷」発覚事件—江戸時代各藩の財政は疲弊、「抜け荷」は必要悪。

勝海舟述懐—「銭谷五兵衛の抜け荷」はとつくに判っていたと。

銭谷五兵衛—「薩摩藩お由羅騒動」と略同時に加賀藩内抗争により暴
露。牢死(1852)。幕府の黙認取り付け政治工作力なし。

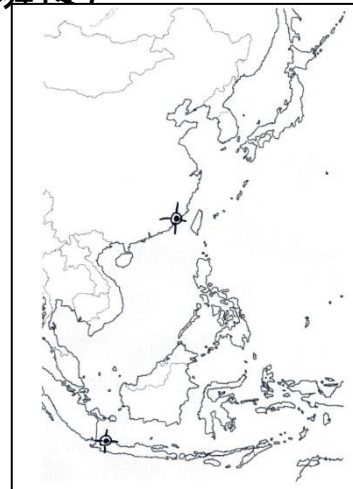
石州・浜田藩—竹島事件。「抜け荷」発覚、藩主(老中松平康任)蟄居、
国替、家老自殺その他藩首脳全滅。おとりつぶしの実例

新潟藩—「抜け荷」処罰評定に出席すべき社寺奉行中岡藩主・牧野備
前守忠雅は欠席。抜け荷の黙認、運上金の受け取りがあった、
といわれる。天保10年(1839)3月7日のこと。

浜崎太平次の 支店網

全国支店網 国内9箇所+海外、造船所：指宿

- 1.北海道・函館
- 2.新潟
- 3.大阪支店(立売堀6 薩摩蔵屋敷隣接)
- 4.長崎西浜町
- 5.日向・宮崎(寒天製造)
- 6.薩摩・甑島
- 7.薩摩・鹿児島 汐見町本店+倉庫
- 8.薩摩・指宿 指宿造船所
- 9.琉球・那覇(若狭町 中國貿易)
- 10.外国(アモイ、ジャワ)



持ち船 計36隻 (殆ど自前の指宿造船所建造)
1,000石船～2,000石船

浜崎太平次の造船所

個人経営造船所一指宿町12湊

面積 7,000㎡ (東西67m X 南北104 m)

当時国内最大？

従業員 300人 同時 3隻建造可能



指宿にあった国内最大級の山木の造船工場の写真

怒庵たより36号

『豪商伝』南原幹雄著

太平次は指宿の屋敷に
藩主のお成りの座敷を作り度々迎えた



造船所の在った場所の現況

薩摩藩騒動2件 ①近思録党崩れ ②お由羅騒動

近思録崩れ(1808～)——隠居中の8代藩主重豪と息子9代当主斉宣との争い
 薩摩藩の龐大な借財が背景——その緊縮改革政策の争い
 お家騒動——1808年文化5年(家宣在職21年目、父重豪は隠居中)～1809年、
 原因——英邁藩主ながら、蘭癖大名ともいわれた家重公の放漫財政と借財急増
 父重豪(隠居)の不満爆発——藩主斉宣の緊縮笹財政不満。
 藩主を隠居、孫の斉興を藩主に。関係者の罷免厳しい処分(77名処分、内13名切腹)。
 負の遺産——藩内の不満分子地下にもぐる。藩政改革にマイナス。

お由羅騒動(1849～)——10代藩主・斉興の後継者を押す2派の争い
 斉彬—長男・正室の子——幼少より英名でしられる。幕府に支持者多い。
 藩主斉興は、英名ゆえの改革出費を懸念、藩主襲封を伸ばす。
 久光—側室の子、保守的
 斉彬派—「薩摩の抜け荷」を幕府に暴露。「藩主を隠居に追い込む」作戦。
 調所笑左衛門—家老(「抜け荷」責任者)——太平次と一体
 藩主をかばい、全責任を取り自殺。藩主の隠居はまぬかれた。
 調所の改革は素晴らしく、抜け荷以外に改革の成果は大きい
 薩摩藩を救った真の改革成功者として、専門家の評価が高い

纏め

浜崎太平次の活躍一

1. 15才から店の船にのり琉球へ。
2. 商才、決断力、公正の態度で海運貿易を発展させる。
3. 蝦夷・松前の俵物を含め大幅な大胆な抜け荷を断行、豪商に。
4. 薩摩藩内のお家騒動にも災いされず、常に藩主と行動を共にする。
5. 何故、9代、10代で没落、断絶したか。太平次の行動態度を受け継ぎ、明治新時代体制に乗り替える器量がなかったか。努力不足か。

川崎正蔵一* 浜崎の琉球貿易船、造船所で仕事体験

1. 造船狂と言われた背景。勤勉努力、太平次は「その才能ただ者でない」と評価。正蔵も又、太平次の商才、行動力、航海*、造船業*を体感して成長。
2. 太平次の感化、長崎での10年間の幕末激動、俊秀との出会い・交流、
3. 明治開明期の造船所建造ブーム**は彼のチャレンジ・スピリットを刺激。

齊彬は鹿児島で1822年造船所建設**、1852年 アメリカ式帆船5隻**、
蒸気機関第1号・雲行丸 等建造**.....正蔵は身近に見て成長。

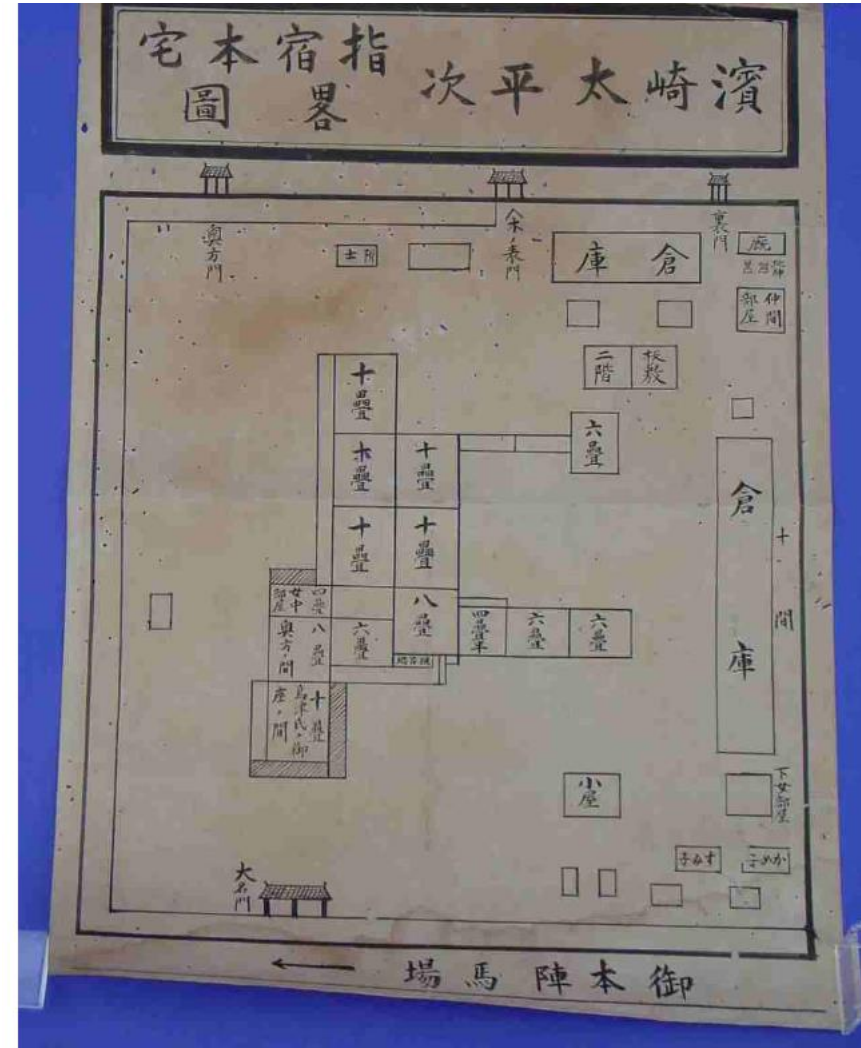
長崎製鉄所	1857年—1879年第1トック—1893年三菱合資会社三菱造船
石川島造船所	1853年—1876年払い下げ—1893年石川島造船所
浦賀造船所	1853年—1876年閉鎖、1897年浦賀船渠設立
川崎造船所	1878年築地造船所—1886年神戸造船所—1896年(株)

参考文献

- 1.「明治期建造の川崎 第1ドックについて」岡本 洋 船舶海洋工学会発表 2016.5.26
- 2.「豪商伝 薩摩指宿の太平次」南原幹夫 角川文庫 平成19.10.25
- 3-1.「浜崎太平次伝」浜崎太平次伝顕彰会編纂 浜崎太平次伝顕彰会 1935(国会図書館)
- 2「浜崎太平次伝 唐船太平記」伊地知信一郎 昭和36.4.30/平成22.6.15
復刊 浜崎太平次正房顕彰会渡瀬一盛
- 4.「海洋国家薩摩一海が薩摩にもたらしたもの」尚古集成館 平成16.7.10
- 5.「海はすごい 琉球・南島との海物語」指宿市考古博物館時遊館企画図録 平成28.1
- 6.「今泉島津家と篤姫の生きた時代」指宿市考古博物館 平成21年1月
- 7.「指宿みなと物語一さつまを支えた山川港」指宿市考古博物館時遊館企画図録 2012.12
- 8.「島津斉彬公日の丸を提言された殿様」照国神社、尚古集成館 平成21.9
- 9.「鹿児島県の歴史」原口虎雄 山川出版社 1993.7.5
- 10.「幕末の薩摩一悲劇の改革者 調所笑左衛門」原口虎雄 中公新書 昭和41.4
- 11.「鹿児島県の歴史」原口 泉 山川出版社 2011.3.30
- 12.「造船王 川崎正蔵の生涯」三島康雄 同文館出版 平成5.7.30
- 13.「川崎造船所四十年史」阿部市助・川崎造船所、神戸・川崎造船所、1936.11
- 14.「九十年の歩み一川崎重工業小史」九十年史編集委員会 昭和61.10.15 川崎重工
- 15.「夢を形に：川崎重工業株式会社百年史」1896-1996 「正」、「資料・年表」
川崎重工業(株)百年史編纂委員会、川崎重工業、1997.6
- 16.「北前船のルーツと盛衰」岡本 洋 2014.04.26 船舶海洋工学会「海友フォーラム」
- 17.「北前船の研究」牧野隆信 叢書・歴史学研究 法政大学出版局 1989.3.25

註1. 太平次と薩摩藩主 その他藩士との交流

1. 太平次の指宿の屋敷に藩主
お成りの間
藩主は度々太平次宅を訪れた。温泉にもつかった。
斉彬も訪れる
2. 藩士との交流
調所笑左衛門(家老)
西郷隆盛、大久保利通、
五代厚助
3. 西郷→軍備ご用金*
大久保→生麦事件ご用金
ライフル銃購入
幕末英国留学費用の用立
など等……。



「濱崎家太平次指宿本宅略図」鹿児島県歴史資料センター黎明館所蔵

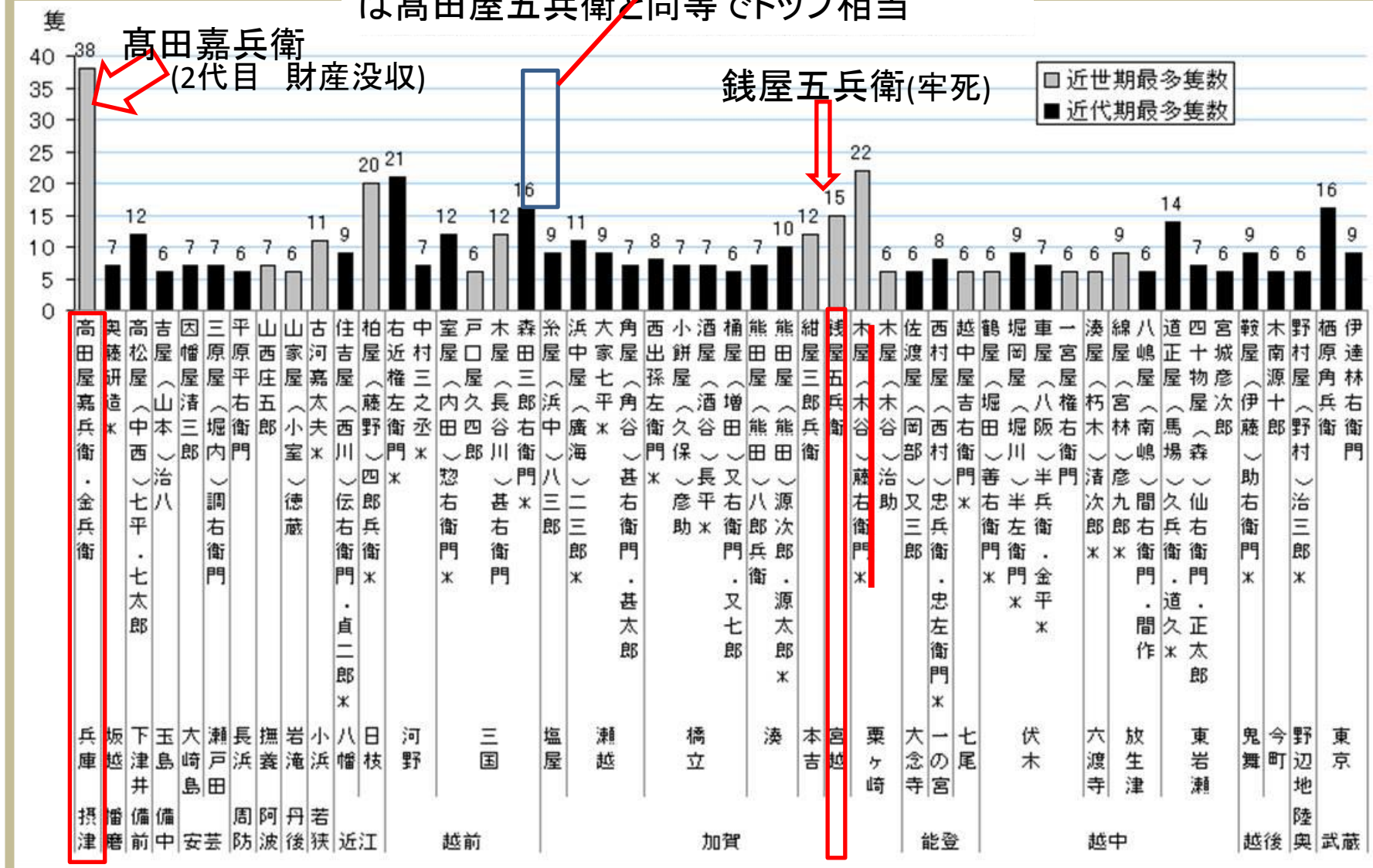
2)等による*

註2.

8代太平次の持ち船隻数は国内トップ相当

北前船の船主たち

8代太平次 の持ち船隻数 36(or 32)隻
は高田屋五兵衛と同等でトップ相当



註3.

薩摩藩による木曾川治水工事

宝暦治水工事

宝暦4年2月～5年5月(1754～55)

工事の形態

幕府より工事を命じられた。

幕府の指揮監督の下、薩摩藩が資金を準備し人足の動員や資材の手配をする形態であった。また地元の村方を救済するため、町人請負を基本的に禁止して村請により地元で金が落ちる方針を取った。

資金

当時すでに66万両もの借入金があり財政が逼迫していた薩摩藩は、大坂で砂糖を担保に7万両手配。

工事費用

費用約40万両(現在の金で約300億円)*。

薩摩藩と幕府に大きな傷跡

巨額な負担、難工事に、「拒否し幕府と一戦を」と藩論は沸騰。藩に大きな借財、幕府に対する恨みなど等、大きな禍根を残した事件



宝暦治水、油島締切堤の跡。旧堤防の跡には、薩摩藩士が植えたという千本松原が並木を作っている。左が長良川、右が揖斐川。 *「水土の礎」より

工事責任者・従事者・犠牲者

家老・平田靱負(ユキエ)を総奉行とする
薩摩義士 約350名。

工事中 切腹 51名、病死 33名

工事後 平田靱負 切腹

*「水土の礎」、その他はwikipediaより

註4. 銭谷五兵衛 の夢のあと—河北潟の昔と今

銭谷五兵衛が晩年

干拓工事着手、冤罪*で中止。彼自身は囚われの身となり牢死。家名断絶。加賀藩が密貿易の発覚を恐れて仕組んだとも言われる。皮肉にも彼の着手した干拓は、20世紀に見事に実現・開花。

*銭谷五兵衛
 加賀藩の御用商人・廻船豪商、外国との密貿易で有名。晩年の夢、河北潟の干拓・開発を請け負う。難工事。埋立に使った石灰で魚が大量死、投獄される。加賀藩内権力移行に利用されたとの説も。



干拓前の河北潟



スライド28 参照

銭谷五兵衛 抜け荷の罪、牢死一家名断絶、全財産没収(1852)。

加賀藩の藩政トップ・奥村丹後守英実(ヒデザネ)と結んで藩所有の商船管理を任されたが、奥村の死後、抜け荷等の不正が摘出された、という。然し、薩摩斉彬の「薩摩藩抜け荷暴露の情報におびえ、加賀藩が自ら銭谷五兵衛を陥れた」のが眞實に近いと思う。时期的に符合する。加賀藩は薩摩藩の様な政治力が無かったという事に尽きる。その後も加賀藩は、「抜け荷を続けた」と言われる。「船主は木谷藤右衛門で太平次と組んだ」*とされる。

私財を投じて、民生に寄与する為に河北潟の埋立工事に挑戦し、敗れたのが銭屋五平衛。工事中に河北潟から死魚が浮き上がったことなどから端を発し、密輸の罪もかけられて、結局息子共々捕えられた(抜け荷に藩が関与を糊塗する為の加賀藩の策謀??)。

銭屋五平衛は獄中で死没、家名断絶、全財産没収。財政難の加賀藩は、幕府に莫大な御用金を納めながら、尚加賀藩内の権力闘争の犠牲として処罰され悲惨な最期をむかえた。

高田屋嘉平一 2代目 全財産没収

嘉兵衛の死から6年後の天保4年(1833)に、幕府からロシアとの密貿易の疑いをかけられる。評定所での審問の結果、密貿易の嫌疑は晴れたものの、ゴローニン事件のときに嘉兵衛がロシア側と取り決めた「旗合わせ」を隠していたことを咎められ、關所および所払いの処分となり、高田屋は没落した。

その後、子孫の代になり關所が解かれた (wikipedia)

・・・国内物流と共に内需産業の拡大に貢献したこれら豪商を圧迫没落に追い込む幕府の愚策がいたましい。

鎖国政策の破綻

註6.

大船建造の禁止—幕府の趣旨は軍船建造禁止、幕府海軍力・シーパワー皆無、国防・海上監視・統制力を喪失。
海外発展意識・機会の放棄

水軍力の消滅—水軍力集団の消滅・山国への転封
<<熊野水軍・九鬼藩→三田藩、来島村上藩→豊後・森藩>>
九鬼・村上水軍等を国の海軍力として組織できなかった。

「抜け荷」厳禁—幕府による長崎貿易独占、開明・進取貿易商・藩の経済発展のチャンスと意欲、貿易機会を圧迫

「経済発展力の抑圧」—海外貿易の活力を抑圧、抜け荷による利益の巨大化を産業振興に組織化出来ず、

「幕府・各藩財政の悪化」—貿易による利益最大化を放棄、商人経済力の発展、武士集団との経済力逆転、海外貿易潜在力をもつ藩を応援せず、厳罰と黙認でコントロールに終始。

私立川崎商船学校

- 1.川崎造船所の創立者
(1837～1912) 川崎正蔵
の遺志により、その子川崎
芳太郎が設立資金を出資
してつくられた。
- 2.「祿教育を廃し、新機軸の
船員教育を」ご奉公の一
端として商船学校の創設
を遺志として嫡子に託す。
- 3.川崎芳太郎(1869～1920)
「士魂を有しつつ商才ある
海員養成を」。T5年11月
私財を拠出し、設立評議
委員会構成。大阪湾沿岸
実地調査。この地に礎石。
- 4.川崎武之助(1893-1946)
高等商船学校への昇格運
動を続け。大正9年実現。
国家への献納私財総額
3,300,284円14銭
一海事科学部長・西田修身
講演資料(1917-2002年)より



左より、来年は創立後、100年を迎える川崎商船学校と、神戸高等商船学校、神戸商船大学の3本の記念石柱。

神戸大学海事科学部・正門近く。 2016.08.03 岡本

- 大正6年(1917)9月 - 私立川崎商船学校設立。翌1918年授業
開始、第1期生50名(航海 科30名、機関科20名)。
大正9年(1920)8月 - 官立に移管され、官立神戸商船学校創立、
川崎商船学校廃止。
大正14年(1925)- 文部省所管とされ、官立神戸高等商船学と改称。

大正8(1919)年4.10 設立、社長川崎芳太郎
川崎造船所の船舶部が独立して会社設立

保有 スtockボート* 11隻現物出資] 計27隻
川崎造船所 運航委託船 16隻 | 23.9万GT

*(第1次世界大戦(1914-18)の海運ブーム時に)、
需要を先読みして顧客決定前から建造された船

背景—第1次世界大戦終了により、世界船腹過剰
現在—外航大手船社*として、コンテナ船、自動車運
搬船、LNG船、油送船等運航。

外航3社* (日本郵船・商船三井・川崎汽船)・・・1999年(H11)大手3社体制*による。

集約経過—1964年大手6社体制、1989年大手5社体制、1999年*↑



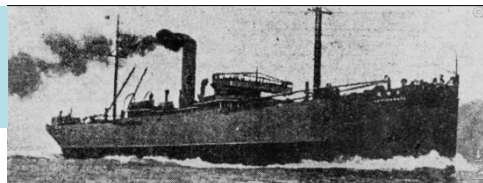
創業当時の社屋

川崎造船所 戦前建造船から

「来福丸 5,857GT, 1918竣工
同型75隻建造、Stockボート全95隻建
造代表船型、30日で建造世界記録



戦艦 榛名



航空母艦 瑞鶴



帆船 日本丸 (初代) 及び海王丸(初代)

スライド おわり